

ビジネスオーケストレーション &オートメーションとは？

その必要性

ビジネスオーケストレーション&オートメーションは、人、AIエージェント、オートメーション、システムを、エンド・ツー・エンドの業務全体にわたって安全かつ同期した形で連携させます。

企業は今、システム、AIエージェント、オートメーションが乱立する環境で動いている

システム・オブ・レコードはデータを保管します。システム・オブ・エンゲージメントは人とやり取りします。しかし、業務をエンド・ツー・エンドで統括するレイヤーはどこにもありません。

53%

AIエージェント活用
組織の割合

KPMG AI Quarterly Pulse,
2026 年第 2 四半期

これから、AIエージェント とオートメーションはあらゆる 場所で動くようになる

一体何が問題になるのか？

次に何が起きるかを定める一つのレイヤーがなければ、業務は驚くほど速く混乱します。考えてみてください…

不完全なルールに基づいて動くAIエージェントを、早期に検知・介入する手段がない

本来関与すべき人が、蚊帳の外におかれる

引き渡し（ハンドオフ）が抜け漏れる

セキュリティ、ガバナンス、コンプライアンスの不備

重要な業務プロセスが停滞・停止する

欠けているレイヤーこそが「実行の基盤（システム・オブ・アクション）」

ビジネスオーケストレーション&オートメーションのためのUiPath Platform™により、人、AIエージェント、オートメーション、システムが一つのコントロールプレーンの下で動き、業務はエンド・ツー・エンドで安全に進みます。



ビジネスオーケストレーション&オートメーションの
基盤について、この先で詳しく見ていきましょう。

3つの柱、1つのコントロールプレーン

貴社の業務のあり方に基づくプロセス権限

業務ロジックを組み込み、状態を保持し、例外をルーティングして、業務を止めずに前進させます。

エンコード化

持続性

統制

すべてのアクターとアクションを対象とする エンタープライズガバナンス

各アクターが何を行えるかを定義し、すべての判断を記録し、注意が必要な事項にフラグを立てます。

ガードレール

監査対応力

人による監督

オープンで拡張可能なエコシステム

すべてのアクターは、以下を横断して安全に連携できます。

業務アプリケーション

AIモデル

レガシーシステム

APIとデータ

これにより、企業全体が一つの存在として機能します。

AIに、成果を出させる。

ビジネスオーケストレーション&オートメーションは、業務をエンド・ツー・エンドで連携させることで、AIの可能性を実際の業務成果へと変えます。これにより、企業はより速い意思決定、コスト削減、そして収益を止めない体制を実現できます。

UiPath

ビジネスオーケストレーション&オートメーションについてはこちら

お問い合わせ